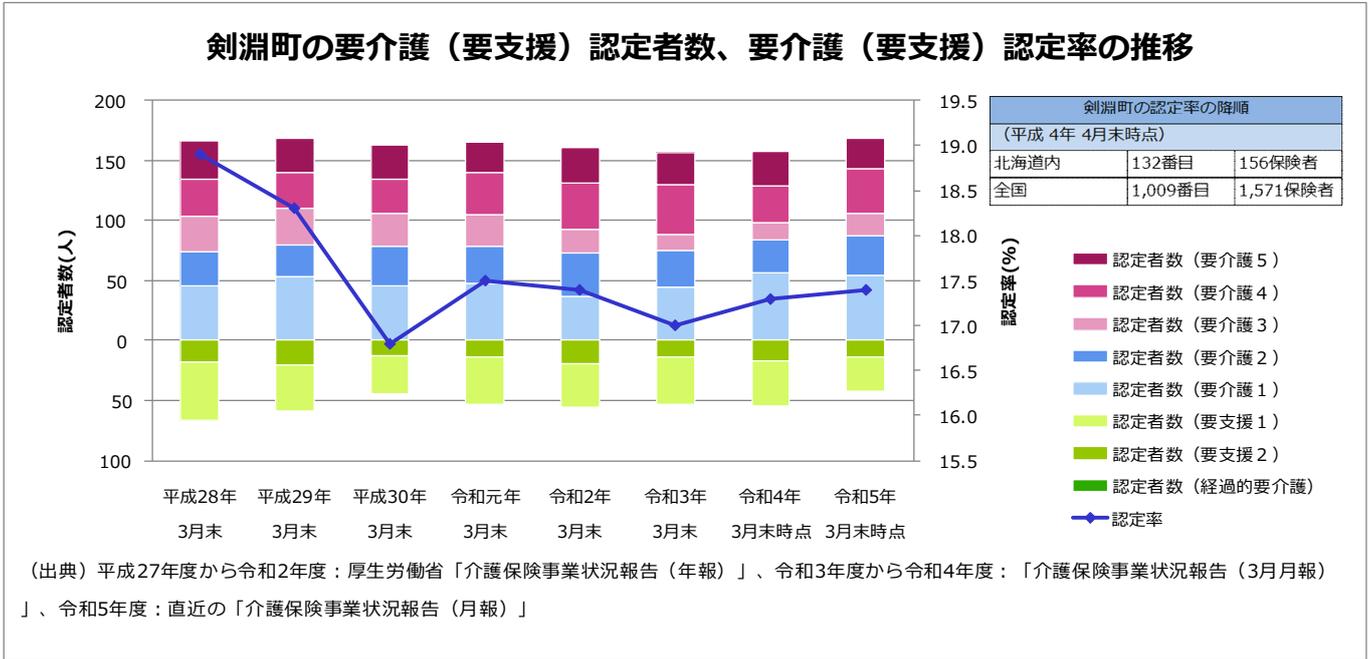


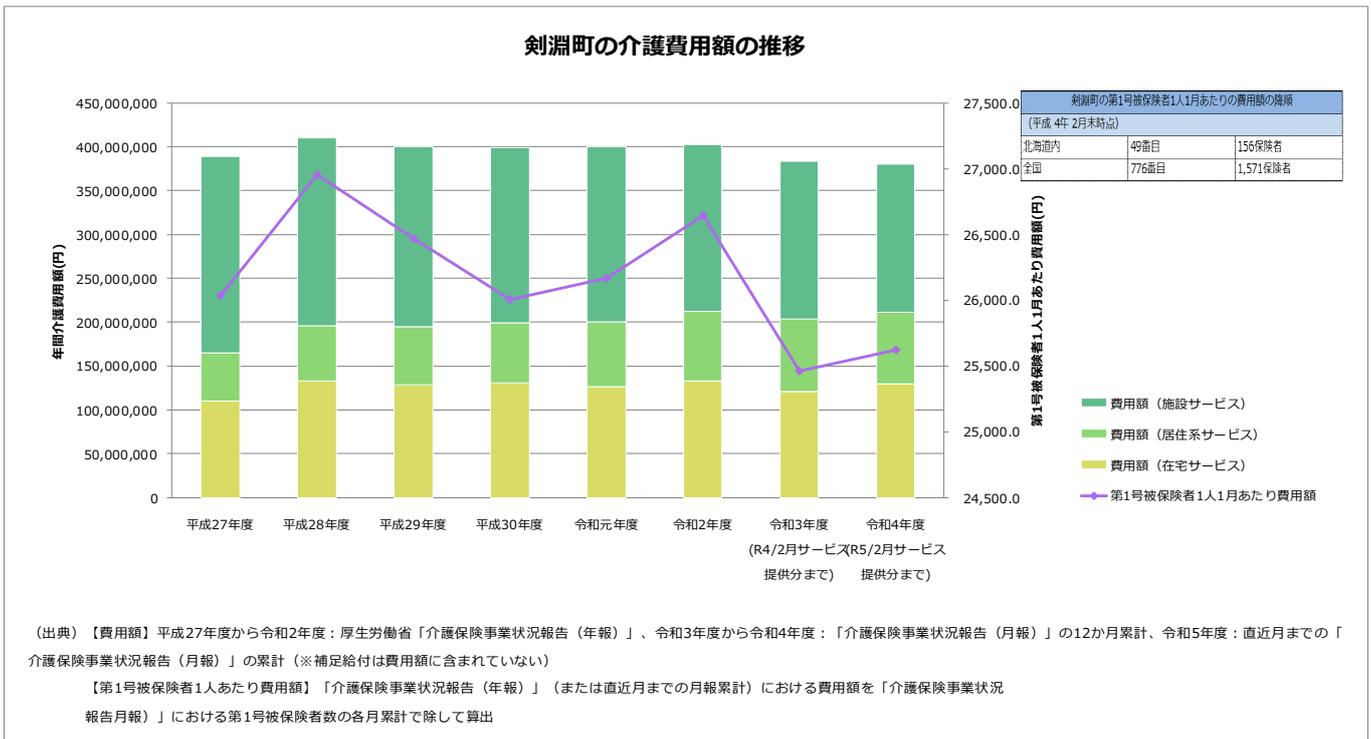
剣淵町の介護保険の現状と分析

1 認定者数、認定率の推移



認定者数は、要介護、要支援を合わせて210人前後で推移している。介護度別では、要介護1が最も多く全体の25.7%（令和5年3月末）を占めている。認定率は、平成28年に18.9%に達して以降は降下しはじめ、平成30年には16.8%まで降下している。その後は若干上昇したものの17%台を推移している。また、全国及び北海道内における認定率の降順では、剣淵町は高い方にある。

2 介護費用額の推移

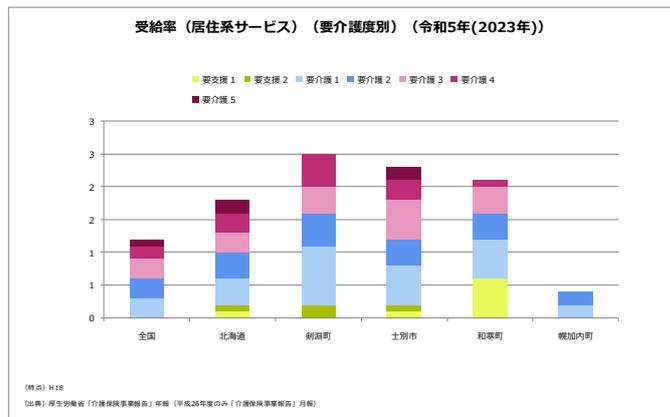
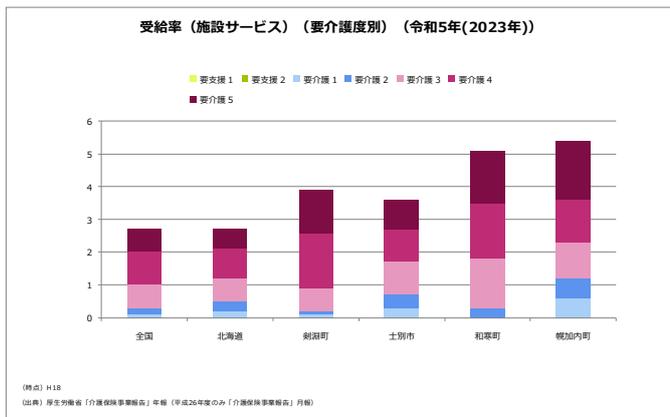


年間介護費用額は、これまで4億円前後で推移してきたが、令和3年度以降は減少し約3億8千万円だった。サービス別では、施設サービスが最も高く約1億7千万円で44.3%を占める。第1号被保険者1人1月あたり費用額では、平成30年度から令和2年度まで増加傾向にあったが、令和3年度以降は大きく下降した。

それでも北海道平均との比較では約 2,000 円上回っている。

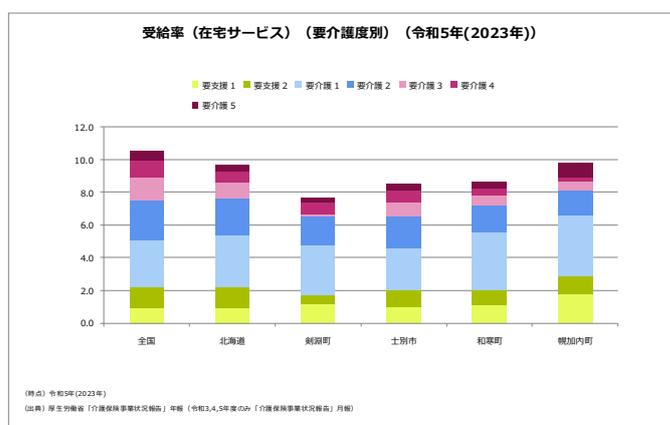
3 近隣自治体との比較・分析

(1) 各サービスの受給率（要介護度別）

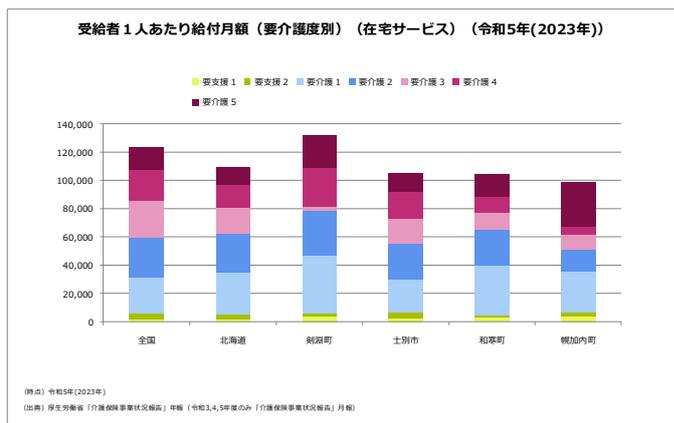
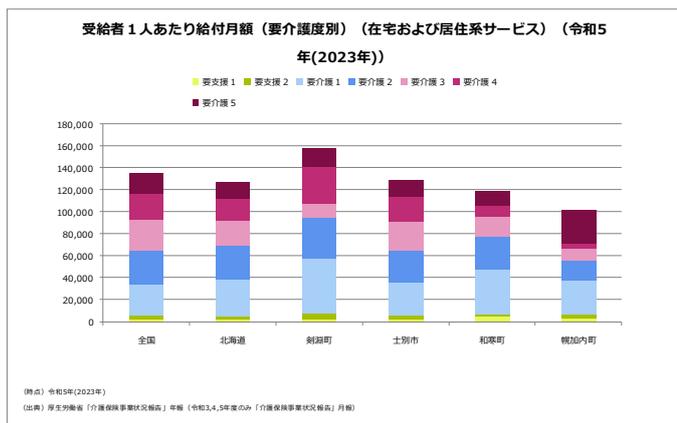


施設サービスは前年度との比較で減少したが、居住系サービスの受給率は、近隣自治体の中で最も高い。全国及び北海道平均との比較では両サービスとも高い。一方で、在宅サービスは、全国及び北海道平均、近隣自治体との比較では最も低い。

剣淵町では、要介護認定の重度者が受けられる在宅サービスの供給資源（サービス事業所）がなく、また近隣にも少ないため、重度者が施設等サービスの利用に頼らざるを得ない状況にある。このことから、定期的にサービス調整会議を実施し、介護サービスの利用調整を検討しながら需要と供給のバランスを確認していく必要がある。



(2) 受給者1人あたり給付月額（要介護度別）



受給者1人あたり給付月額は、北海道平均、近隣自治体との比較では、剣淵町は高い値となっている。いずれも受給者1人あたり利用日数・回数が高いためである。このため、介護給付適正化事業によるケアプランの点検、縦覧点検を実施し、適正な介護サービスの利用について確認する必要がある。

4 日常生活圏域について

剣淵町では町全域を日常生活圏域としているが、高齢者の単身・夫婦世帯の増加により農村地区から市街地地区へ移動する傾向にあり、一部地域では高齢者の集中が見られる。